

さらに、PPIメンバーの明確な役割や責任が定義され、会議参加や実装への関与に加え、報酬や交通費などの費用が支払われる制度が整備されており、「経験知への対価」が枠組みとして明確化されていた。

3. McPin Foundation における当事者参画の専門的実践

1) 機関の概要

McPin Foundation (McPin) は、精神保健研究における当事者参画およびピアリサーチを専門とする、設立から約12年が経過した慈善団体である。

「当事者としての生きた経験は研究における強力な資産である」という信念に基づき、精神保健分野において、当事者の経験を組織的・専門的に研究に活かすための構造を提供することを使命としている。単に当事者を研究に「参加させる」のではなく、ピアリサーチ、コ・プロダクション、PPIの実践を通じて、当事者が研究の設計・実施・発信のあらゆる段階に深く関与できる環境を整えることを目指している。

McPin では、学術的専門性、臨床的専門性、そしてLEに基づく専門性を相互補完的なものとして位置づけ、それらを統合しながら研究を進めている点が特徴的であった。

2) 組織構造と運営体制

McPin の特徴は、大学や医療機関などの外部のアカデミックパートナーと連携しながら、数多くの研究プロジェクトに対して、当事者視点を取り入れるための専門的なコンサルティングの提供や共同研究に関与している点にある。組織は運営、コミュニケーション、そして研究・参画の各チームからなるマトリックス体制をとっており、約30名のスタッフで業務を進めている。訪問時点で56のプロジェクトが進行中であった。

3) 当事者参画の多層的構造と役割

McPin における当事者参画は、単一の役割ではなく、複数の層からなる構造として設計されている点が特徴である。

当事者経験諮問委員会 (Lived Experience Advisory Panel: LEAP) は、通常8～12名で構成される当事者グループで、会議を通じて研究デザイン、リクルート、アウトカム指標や分析の枠組みなど



について助言を行う。PPIコーディネーターは、LEAPメンバーと研究チームの橋渡し役を担う実務担当者で、精神保健の当事者経験を有することを要件のひとつとしている。ピア研究者・共同研究者は、研究の実務（インタビュー実施、レポート執筆等）に直接従事する役割である。また、メンバー募集にあたっては、「代表制」よりも「多様性」を重視する方針を明確にしており、バックグラウンドや経験の異なるメンバーを組み合わせることで、グループとしての厚みを生み出している。

McPin では、このピア研究者の役割をLEと専門的教育による知識の両方を研究にもたらすアプローチとして位置づけている⁵⁾。また、ピア研究者に固有のスキルとして開示 (disclosure) の適切な活用、再帰的实践、共感的つながりが特定されており、これらは研修や実践を通じて開発・洗練されるものとして位置づけられている。

一方で、McPin は学術・臨床機関と当事者の「橋渡し機関」としての立場の複雑さも自覚している。学術機関は歴史的に当事者経験から得られる知識を「偏向している」「非科学的だ」として軽視してきた経緯があり、McPin は設立から現在までピア研究を知識創造の信頼できるアプローチとして、学術界に定着させることに取り組んできた⁵⁾。また、ピア研究に伴う感情的コストについても組織的に対処しており、月次スーパービジョン、外部メンタリングなど、複層的な支援体制を整備している点が特徴的であった。

4) 報酬と雇用形態

報酬はバウチャー (例：ギフトカード) ではなく、銀行口座への振り込みを原則としている。これは、「研究参加へのお礼」ではなく、「専門的貢